

私は滋賀県の琵琶湖の北西部、人口1万2千人ほどの今津町(高島市今津町)で生まれ、23歳まで住んでいた。今津町は高島屋百貨店の先代の故郷、琵琶湖周航の唄の「誕生の地」、桜美林大学の創立者の出身地が有名なくらいの町である。

地元の高校を卒業し、京都での学生時代は日米安保闘争の最中で学園内はデモに明け暮れ、近代史に名をとどめる60年安保闘争そのものだった。政治の混乱で経済発展もままならず、アカデミックな雰囲気はおろか反米思想が充満していた。



私と金型との出会い

大垣精工会長 上田勝弘

就職口の門戸は狭く公務員か一部の大企業への就職を除いて、大部分の学生はそれなりに中小企業へ就職していった。私も就職に困った。教員免許を取得して教師への道は開けていたが、両親を田舎に残し、転勤の多いのは適わないと考え、調理師免許を取得した。

就職難だったが、奇しくも縁があつて大垣市の金型と部品生産メーカーに就職した。会社は当時、大手通信機メーカーの部品サプライヤーで、特に電話交換機向けの精密部品はさしたる競合メーカーもなく、技術水準も高くて収益力も高いメーカーだった。

田舎で育ち、法学部卒の私にとって、鉄で鉄を削り磨き上げて金型になり、金型で打ち抜き、大量に精密部品ができる工程は大変興味のある職場だった。63年前の工場は技能工が中心の時代だった。法学を学んだ私には社内で重視されるポストはなく、一度金型作りに挑戦しようと社長に頼み込み、大手メーカーの金型工場に研修させてもらうことになる。これが金型との出会いになり、自力で作れることの面白さが私の人生を変えた。